



# 少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会

<http://www.a-shorenkyo.jp>

〒120-8510 東京都足立区中央本町1-17-1 足立区役所  
青少年課 青少年事業係 TEL 03-3880-5275

発行人 野辺 陽子  
編集 調査広報部  
大林 市川 田中 小野田  
高澤 鈴木 川下 山岸  
高橋 山川 小林



## 笑顔いっぱいの子どもたち



栗立ちゆく

子ども達へ

足立区  
少年団体連合協議会会長 野辺 陽子

春は別れの季節であり、また出合いの季節でもある。

今年も中学校・小学校の卒業式でそれぞれとても心暖まる思いをさせてもらった。

あんなやんちゃだった子が、緊張の面持ちで校長先生から証書をいただき、きちんと礼をしている姿。あんなに反抗的だった子が、一所懸命に、別れの歌や校歌を泣きながら歌っている姿。さまざまな思い出が去来し、この仲間とこの歌をうたうのはおそらくもう二度とないだろうと思っただけの卒業式と重ね合わせ、私も目頭が熱くなったのだった。

さて、その思い出だが、卒業を前に「思い出作りのために」お別れ会をするとか、スポーツ大会などで「よい思い出を作ってください」という言葉をよく耳にする。果たして、思い出って作るものなのだろうか。思い出は、一所懸命何か打ち込みそれによって感動した結果、心に残るものか思い出となるのだと思う。

私達子どもを見守り育てる者としては、子ども達が感動するような機会をひとつでも多く与えることを使命と心得ている。決しておしきせの思い出作りの場になってはならない。

たくさん感動の結果としての思い出を胸に栗立ちゆく子ども達に、幸多かれと今年も折るばかりだ。

# 少連協新年会 和やかな雰囲気です！

総務部長

元井 一壽

去る、一月九日(金)少連協新年会が、レストランピガールにて開催されました。

今年も、足立区長様、足立区議会議員長様、足立区教育委員会教育長様をはじめ数多くのご来賓をお招きしての開催となりました。

第一部は、大林副会長の開会の辞で始まり、全員での区歌「わがまち足立」斉唱、野辺会長挨拶、足立区長様、足立区議会議員長様のご祝辞、ご来賓のご紹介、足立区立小学校長会会長丸山昌哉様のご挨拶

杯と式次第が進み、その後しばらくご歓談いただきました。

第二部では、少連協恒例のビン

ゴ大会を行いました。今回は、ビンゴになられた方に番号を引いていただき、その番号の景品をお持ち帰りいただきました。その景品は、新年会に参加された皆様全員にお渡しできるよう、少連協役員や有志の方々のご好意で揃えました。

足立区青少年対策地区委員会会長連絡協議会会長赤間信一様の中締め、終了際には、これもまた恒例になりました「青い山脈」を、



▶野辺陽子会長の「ご挨拶」



▲丸山昌哉小学校長会会長の乾杯発声



▲カメラに向かって…



▶赤間信一青少年対策地区委員会会長  
連絡協議会会長の中締め



▲全員で手をつなぎ「青い山脈」を合唱▲





▲全員で万歳三唱



▲北島一弘青少年委員会会長の万歳三唱

全員で手をつなぎ合唱し、足立区青少年委員会会長北島一弘様の万歳三唱、鈴木副会長の閉会の辞で和やかな雰囲気の中、閉会を迎えることができました。参加をいただきました皆様のご協力に感謝申し上げます。



去る、平成二十六年十一月三十日(日)に、平成二十六年度少連協日帰り研修旅行を開催いたしました。

当日は、野辺会長はじめ総勢四十四名が参加をしていただきました。

最初の研修場所は、御殿場市富士山交流センターでした。ここは富士山樹空の森という広い公園とビクターセンターの中に天空シアターという施設があります。

## 少連協日帰り研修旅行 富士山樹空の森ほか

総務部長 元井 一壽

到着後、まず富士山樹空の森を散策して、天空シアターに入りました。ここでは富士山の成り立ちから現在に至るまでの歴史をスクリーンで観賞し、直径6mの立体的な富士山を主体とした山麓の様子を再現し、雲の流れや春夏秋冬の情景、ご来光差し込む山麓の姿など、刻々と変化をする自然の表情をCG映像でリアルに表現している展示を見学しました。

そのほか「富士山は生きていく」と題した活火山の様子や、「富士山の恵み」と題した数多くの湧水池の展示も興味を持って見学出来ました。

その後、沼津にて昼食と買い物すませ、東富士五湖有料道路を通り午後の見学場所のリニア見学センターに行きました。ここは、山梨県立の施設で走行試験の様子を見学したり、超電導リニアヤリニア中央新幹線の概要を各種の展示物により解かりやすく紹介している施設でした。あいにく見学当



日はリニアの走行試験は見られませんでした。超電導リニアの仕組みや原理を体験しながら学ぶことが出来ました。

帰路の車内では、恒例のビンゴゲームを行い楽しい雰囲気の中で、無事に帰ることが出来ました。参加いただきました皆様、有難うございました。

# 平成二十六年 度 江東五区少年団体代表者会議

昨年度、墨田区よりパトシタツチされた足立区が開催区となり、十月二十五日（土）足立区ギャラクシテイで開催されました。受付終了次第館内を自由見学して頂き、その後三階のまるちたいけんドーム観賞、リニューアルされた館内施設は好評でした。

三時より開会式。初めに野辺会長より、各区代表者の方々へ、ご挨拶を申し上げた後、今回の代表者会議のテーマ選定の経緯及び趣旨について、説明いたしました。



▲野辺会長より各区代表者の方々へご挨拶

今回は、足立区での課題となつて  
いるジュニアリーダー問題に絞る、  
◎第一分科会  
「ジュニアリーダー育成における  
今後の課題」

◎第二分科会  
「ジュニアリーダー研修講師養成  
の現状と展望」

について、各区の取り組みを伺  
いたいと考え、テーマを設定しま  
した。

続いて、足立区青少年課村上係  
長より、足立区の現状について、



▲青少年課村上係長の説明

「講師の高齢化、減少」の問題に  
対しジュニアリーダーの組織化に  
取り組んでいることの説明を申し  
上げました。

## 【第一分科会】

書記 小野田みよ子

第一分科会は、「ジュニアリー  
ダー育成における今後の課題」に  
ついて十八名で意見交換しました。

◎各区相互の少年団体、ジュニア  
リーダーの組織について理解を  
深める。

◎各区、ジュニアリーダー活動の  
内容と課題を提起し、相互理解  
を深めるとともに、解決策を見  
出していき、今後のジュニアリ  
ーダー活動に役立てていく。

各区共通の悩みは、研修会の参  
加者の減少、特に高学年になると  
顕著、それでも続けていくことは  
意義のあること、チラシやポスタ  
ー等PRの充実、口コミが一番効  
果的だということで納得しました。

足立区でも「指導者組織検討会  
議」立ち上げの準備中の報告があ  
りました。



▲第一分科会

## 【第二分科会】

育成部長 辻村宣明

第二分科会では、「ジュニアリ  
ーダー研修講師養成の現状と展  
望」というテーマに基づいて、各  
区の代表者よりお話を伺いました。  
加藤副会長の司会により、各区  
より次の二点について資料を使い  
ながら説明を受けました。

①各区少年団体組織図についての  
説明

②各区での講師養成の現状

今回のテーマである「ジュニア  
リーダー研修講師養成」という点  
に絞って各区から意見をいただき





▲第二分科会

ました。  
葛飾区

指導者は減少傾向にある。実質十名程度。リーダーとするのは中学生以上、初級・中級・上級（二十二歳）三段階のライセンスを発行し継続して五年間活動すると表彰して、モチベーションを高めるようにしている。

江戸川区

講師養成制度（全十五回）のカリキュラムを作り、十四講座受講により講師として登録する。年間五〜八名程度の修了者がいる。但し、仕事の都合等で活動が出来ない



くなることも多い。

江東区

ブロック毎にリーダー組織があるが、活動のためのスタッフの確保が課題となっている。初級講座・中級講座・上級講座を受けて講師となる。地域、学校での活動の場が求められている。

墨田区

行政としては特別な養成は行わず、都レク協会のインストラクター資格の取得を勧めている。終了した子ども連を地域に還元するため青年協力会を作り、子ども会や区のイベントに派遣している。

各区はそれぞれ独自の取り組み、講師養成を実施していることが分

かりました。足立区でも少連協と青少年課が協力して、ジュニアリーダー組織の養成、組織化を三カ年計画で進めていく。若いリーダーが講師となり、ジュニアリーダー研修をさらに充実したものに、また次のリーダーを育てる良いサイクルを作っていく、リーダー達が活躍できる場を広げていけるとよいのではないのでしょうか。

「まとめ」「貴重な情報交換会に感謝」

副会長 山本輝夫

江戸川、葛飾、江東、墨田、足立の五区が持ち回りで開催する「江東五区少年団体代表者会議」が西新井ギヤラクシテイこども未来創造館にて開催、ゲスト二十二人を招き、開催区としての役割を果たした。

また、脚光を浴びている「足立区こども未来創造館複合型体験施設」を会場に選べたことはPRもかね有意義な情報交換会ができた。会議の内容は少子化に伴う子ども会員の減少と指導者の高齢化傾向は各区共通であり、新たな問題に取り組む独自の工夫が実施されていた。各地域の現状と継続によ



る組織・運営は特色があり、子どもの生活スタイルが多様化する中、足立区の少年団体と共通する問題がある。

まさに少連協が抱える二つのテーマを各区代表者に投げかけ「ジュニアリーダー育成」と「指導者育成」の組織運営を確認し、学び合う貴重な会議になった。改めて代表者会議の意義を感じ取れた。

については、平成二十五年・二十六年年度事業方針に「指導者組織の運営強化」を掲げ、教育委員会の指導のもと、受託事業の充実と少連協組織力を一層高めてゆきたい。

## 全国子ども会育成中央会議・研究大会

副会長 鈴木 春男

平成二十七年二月二十日、名古屋市市中区役所ホールにて全国子ども会育成中央会議・研究大会が開催されました。開会式では文部科学副大臣、愛知県知事、名古屋市長、市会議長の挨拶があり、特に河村市長からは「なごや子ども応援委員会」の立ち上げの話があり、子ども達が抱える心の問題に積極的にアプローチを行い、早期発見、未然防止の個別指導体制に取り組んで行く試みを開始したことが披露



露されました。応援委員会というソフトなネーミングが親しまれると思います。

講演では森の学舎インタープリター山川幹子さんの「子どものころの体験と、その後の人生との関わり」で、幼児期の自然体験が子どもの心の成長に大きく関わり、自然を大切に環境を守る知恵が身につくことが話されました。また二十五年間流水の上でアザラシや白熊の写真を撮影した小原玲さんの「環境問題をテーマにした『流水の伝言』」では、地球温暖化により異変が起こっている現状が報告されました。

自然体験型環境学習に取り組む



続けています。講演では森の学舎インタープリター山川幹子さんの「子どものころの体験と、その後の人生との関わり」で、幼児期の自然体験が子どもの心の成長に大きく関わり、自然を大切に環境を守る知恵が身につくことが話されました。また二十五年間流水の上でアザラシや白熊の写真を撮影した小原玲さんの「環境問題をテーマにした『流水の伝言』」では、地球温暖化により異変が起こっている現状が報告されました。

## 東京都子ども会育成研究協議会

副会長 鈴木 春男

「子ども会活動の活性化を求めて」のテーマで、平成二十六年年度東京都子ども会育成研究協議会が、十一月二十四日小金井市市民会館で開催されました。

目黒流貫井囃子保存会による江戸時代から継承された伝統あるお囃子実演を鑑賞しました。狐のお面をかぶり客席まで踊り込む激しい演技に、大きな拍手が沸いていました。子ども達のすばらしい演技でした。その後の基調講演は保存会会長の大澤国栄氏の「伝統芸





能と子ども達への継承」とのテーマで行われ、小金井地区のリーダーとして次世代への伝統継承の苦勞話が披露されました。

第一分科会では私が司会を務め「育成者はどのように地域活動の指導者と連携するか」のテーマで、活発な意見が交わされました。魅力ある子ども会とは何か？ 育成者の研修はどのように行っているか？ 地域活動にかかわる入り口を広げ新しい育成者を取り込むために地域で活動する指導者は何をすべきか等の意見が交わされました。

### 東京都子ども会育成研究協議会

会計 鈴木 健治

第四部会は、「ジュニアリーダーの役割と青年リーダーに求めるもの」のテーマで、参加者十八名（男性八名・女性十名）で、司会を青年リーダーが行いました。

まず、育成者との関わりについて討議されました。どの区も育成者がある程度は協力してるが、殆どがリーダー中心で行事を行っています。

次に、各団体の組織構成の話に



なりました。

墨田区はリーダーが多く、試験方式で合格すると進級できます。

足立区の参加者は、組織について理解されていない様子で、地元の地少協のメンバーについて話をしていました。

また、葛飾区のリーダーは青年リーダーと葛飾区子ども会連合会の伝達がスムーズにいかないため、大変迷惑しているとのことでした。各区もリーダーの組織より人員不足で悩んでいるようです。

葛飾区では、広報を配り募集運動をしています。小金井市では、参加する生徒が決まっているため、小学校に毎月宣伝をして募集活動を行っています。

足立区の参加者からは、「地元ジュニアリーダー研修会は内容が毎年同じでつまらない」「パワーキッズではボーリングをしたり多才なことをして参加者も喜んでい」などのほか「会場に来て協力していただく方々にネームプレート

ートをつけてほしい」という意見も出ていました。最後に各区のリーダーより不満や辛いことが何点か出ましたが「自分のスキルアップのために頑張ります」という、頼もしい発言もありました。

#### 災害で生き延びる智慧を身につける

第五地少協 田中 加代

今、子ども達に失われているサシマ（三間）時間・空間・仲間を取り戻すべく企画として、今年度第五地少協は、九回にわたる体育館開放（レクススペースを設置）場所をつくり、集まった子ども達による仲間づくりを募った。

災害時の避難所のルール決め・運営法などの全てを肯定意見とし、総意を持って運営の仕方のブレ会議も行った。災害のない平時に少しでも知識を身につけ、いつか迫りくる災害に対処できるように、子ども達の防災力向上の一環に合ったと自負している。

その第八回目、二月八日（日）西新井第一小学校体育館において、KYT子ども会危険予知トレーニング防災編を行った。

今回もつと盛りが上がった体験ゲームは、「ミッキーを救え」。地震発生の声かけと共に、机下に避難。その後、バケツリレーで初期消火。マット・ダンボール箱を倒壊物に見立て、その下に倒れている等身大ミッキーマウスのぬいぐるみを救出。止血などの応急手当を施した後、簡易担架でゴールまで競うチーム戦は、三十名ほどの子ども達が力を合わせ行っていた。



足立区には、独自の防災かるたが無いので、地域密着型かるたA4版の大型を作成し、体育館中に広げ、かるた遊びをしながら、防災知識・危機を学んだ。その後「アイス・ノーアイズ」をしながら、集団生活を送らなければならない

高輪化が進む現在、正しい知識を活動可能な子どもにトレーニングすることが、あらゆる可能性を秘めていると信じている。

## 第七回トッチビー大会

事業研修部長 清水 康弘

平成二十七年二月十一日(水)

来賓に足立区スポーツ推進委員会 会長羽住敏久様、日本ドッチビー協会代表プロデューサー稲垣敬雄様を迎え、参加チーム十九チーム 参加者二百五十七名(小学生二百五十七名・中学生二十九名)で、舎人第一小学校体育館一階・二階 を使用して、第七回トッチビー大会を開催いたしました。

Aブロック	A1	A2	A3	A4	A5	勝点	セット	得点	失点	得失差	順位
第五地少協 西新井本町 三丁目小学校児童会		○	○	○	○	4	8	90	23	67	1
舎人地少協 舎人日の出 子ども会	X		○	X	○	2	3.5	81	76	-15	3
新井地少協 新井地少協	X	X		X	○	1	2.5	84	77	-13	4
第六地少協 第六地少協	X	○	○		○	3	6	76	63	13	2
カバチA カバチA	X	X	X	X		0	0	38	90	-52	5

Bブロック	B1	B2	B3	B4	B5	勝点	セット	得点	失点	得失差	順位
舎人地少協 レインボースター		X	○	○	○	3	6.5	76	54	22	1
加学小チーム 加学小チーム	○		○	○	X	3	6	71	62	9	2
鳥子ども会 鳥子ども会	X	X		X	○	1	2.5	82	74	-12	4
花畑地少協A 花畑地少協A	X	X	X		X	0	0	42	83	-41	5
新田A 新田A	X	○	○	○		3	5	78	56	22	3

Cブロック	C1	C2	C3	C4	C5	勝点	セット	得点	失点	得失差	順位
チームおもしろ組 チームおもしろ組		○	X	○	○	3	7	75	58	17	2
ダンライオン ダンライオン	X		X	○	X	1	2	55	78	-23	4
さくらドラゴン さくらドラゴン	○	○		○	○	4	6	77	37	40	1
花畑地少協B 花畑地少協B	X	X	X		X	0	0	45	91	-46	5
カバチB カバチB	X	○	○	○		2	5	88	56	32	3

Dブロック	D1	D2	D3	D4	勝点	セット	得点	失点	得失差	順位
五色さくら 五色さくら		○	X	○	2	3	82	53	-1	3
舎人地少協 舎人日の出 子ども会	X		X	X	0	0.5	44	66	-22	4
緑葉キッズ 緑葉キッズ	○	○		X	2	4	57	44	13	2
新田B 新田B	X	○	○		2	4.5	82	52	30	1



優勝は、第五地少協・西新井本町二丁目Aチーム。準優勝は、第五地少協・さくらドラゴン。第三位は、新田地少協・新田B。第四位は、舎人地少協・レインボースターでした。

### 編集後記

いよいよ今年度は、五十周年事業の年となりました。調査広報部としても、いままでよりも、さらに皆さんに取材、記事作成にご協力をお願いしたいと思っております。合わせて、記念誌作成に、全員で頑張っていく所存です。(大林)